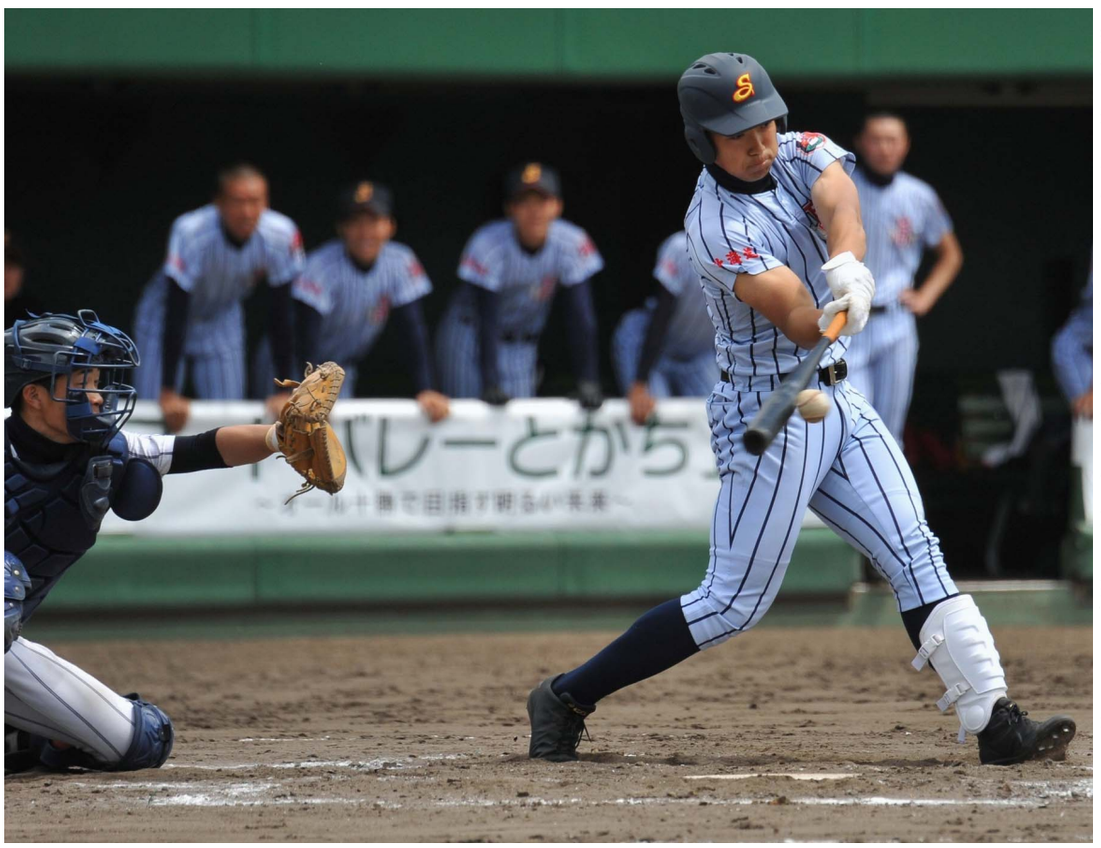
白樺 江陵破り4強

春季 高校野球 十勝支部予選

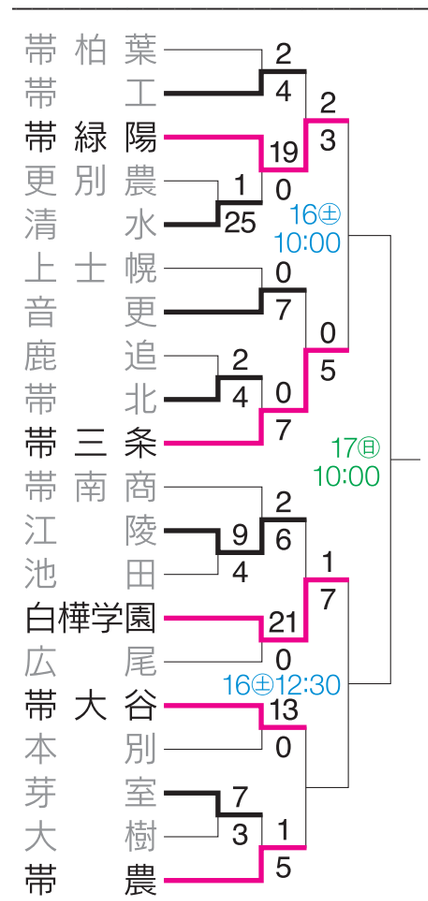
延長十一回に6得点



【準々決勝・白樺学園―江陵】延長11回、白樺学園は１死二塁から６番の河瀬寛三が右中間へ適時二塁打を放ち２－１と逆転する

第6日は14日、帯広の森野球場で準々決勝2試合を行った。午前の第1試合は白樺学園が、江陵の左腕古谷優人（2年）に苦しみながらも延長十一回に集中打で6点を挙げ勝ち越し、投げては河村説人（3年）―中野祐一郎（同）の1失点リレーで7―1で勝ち、12年連続のベスト4進出を果たした。江陵の古谷は3試合連続の2桁奪三振をマークしたが報われなかった。

13日午後の準々決勝は、シード校の帯緑陽が延長十三回、赤田椋太郎主将（3年）のサヨナラ二塁打で帯工を3―2で破り、3年連続の4強入りを決めた。帯緑陽の長江理貴（3年）が17奪三振、帯工・大宮蓮哉（同）も12三振を奪う投手戦ながら、互いに土壇場で点を取り合う白熱した攻防戦となった。同じくシード校の帯三条は角玄隆斗（3年）が自己最速更新となる球速144キロを記録し、15奪三振に抑える力投で公式戦初完封し、打線も終盤の集中打で5―0で快勝し、8年ぶりの準決勝進出を果たした。（岡部彰広、金野和彦）



三条2試合連続完封

音更好守も打線散発

◇準々決勝（13日）
音更 000000000 0
帯三条 00100004×―5

▽三塁打＝牛尾（帯）
▽二塁打＝紺野晴（音）橋本、越後（帯）

帯三条は二回、池田が四球と犠打で二進。糸瀬の左前打で1死一、三塁とし川岸の内野ゴロで生還した。七回には1死から川岸の中前打に橋本の左越え二塁打とこの試合初の連打で2―

【準々決勝・帯三条―音更】９回を１人で投げ抜き完封した帯三条の角玄隆斗

◇準々決勝（14日）
白樺学園 000010000 1
江陵 000000001 0

▽三塁打＝川波（白）佐藤勇（江）
▽二塁打＝河村、河瀬（白）
（延長十一回）

白樺学園は、五回1死から河村が右中間にチーム2本目の安打となる二塁打。川波の死球で一、二塁とし、後藤の一、二塁間を抜く適時打で先制した。九回には同点に追い付かれたが、十一回1死から敵失とけん制悪送球で二進の橋本が、河瀬の右中間二塁打で生還、勝ち越した。さらに矢尾板の左前適時打、川波の右中間2点三塁打、後藤の中前適時打など打者10人5安打で6点を奪い、逃げ切った。

江陵の左腕古谷は、白樺の河村に劣らず右打者内角を突く速球やキレのある変化球を武器に、初戦21安打の白樺打線から13奪三振。打線も八回までは2度の得点機を逸し、九回にようやく代打佐藤勇の右中間三塁打に山本の左前打で同点に追い付いた。しかし九、十回に2死三塁のサヨナラ機を生かせなかったのが響いた。